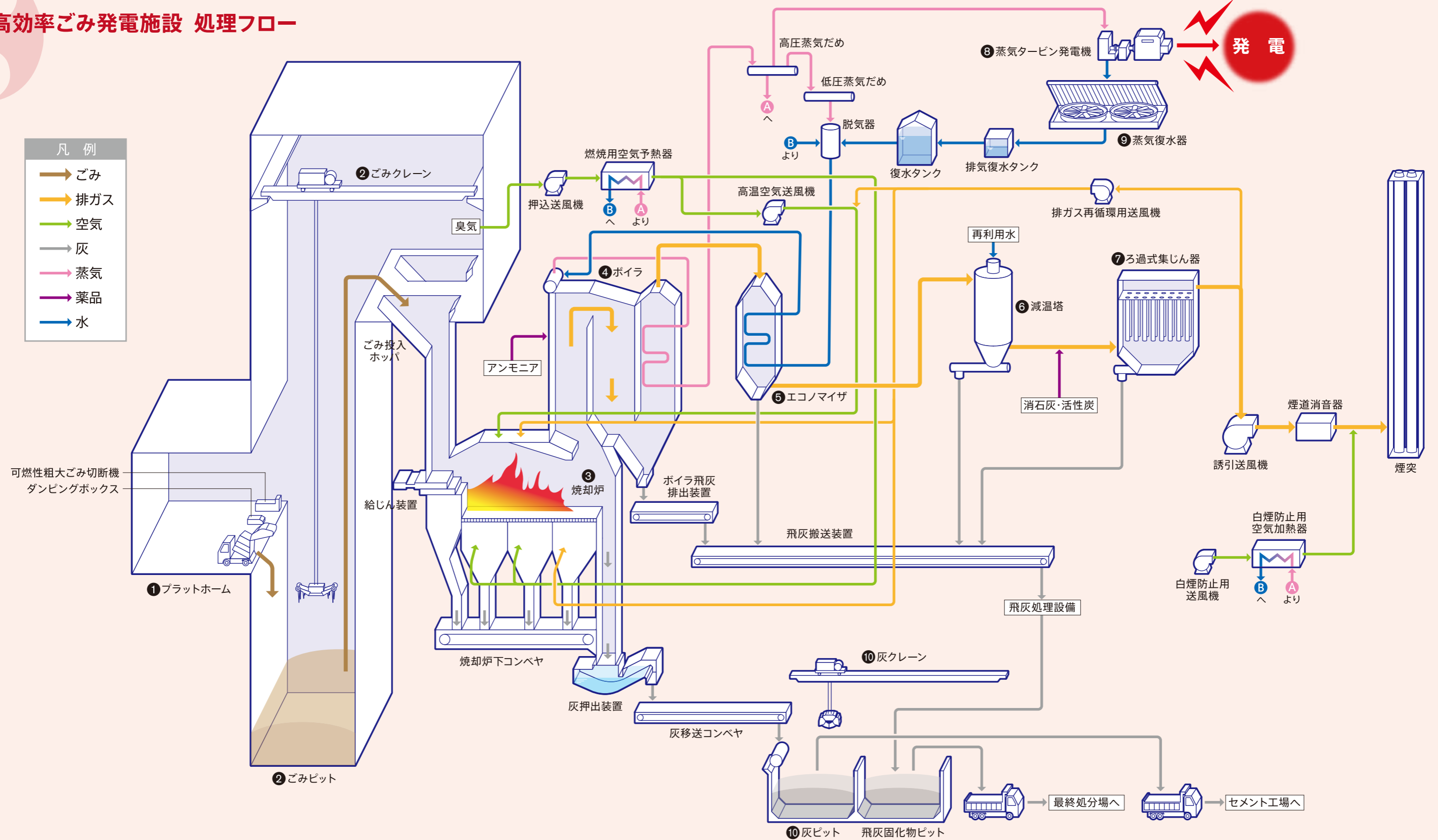




# 高効率ごみ発電施設 処理フロー



- 凡例
- ごみ
  - 排ガス
  - 空気
  - 灰
  - 蒸気
  - 薬品
  - 水

可燃性粗大ごみ切断機  
ダンピングボックス

**燃やせるごみの流れ** →  
佐世保市西部クリーンセンターに運ばれた燃やせるごみは、計量後、プラットフォームからごみピットに投入されます。ごみピット内のごみはごみクレーンで攪拌され、ごみ質を均一化した後、ごみ投入ホッパから焼却炉内に供給されます。炉内のごみは、ストーカ上を移動しながら燃やされ、灰になります。炉内は850℃以上の高温状態になっているため、ごみは完全燃焼します。

**排ガスの流れ** →  
焼却炉から出た高温の燃焼ガスはボイラとエコマイザ、減温塔を通り冷却されます。その後、排ガスに消石灰と活性炭を吹き込むことで、塩化水素の中和除去、ダイオキシン類の吸着を行います。排ガス中に含まれる有害物質はろ過式集じん器でばいじんと共に捕集することで清浄な排ガスとなって煙突から排出されます。

**空気の流れ** →  
ごみピット内の臭気を含んだ空気は、焼却炉の燃焼用空気として押込送風機及び高温空気送風機により炉内に送られ、完全燃焼されることで臭気が分解されます。

**灰の流れ** →  
焼却炉で燃やされたごみは焼却灰となりセメント工場へ送られ、セメント原料として有効利用されます。また、ボイラやエコマイザ、減温塔、ろ過式集じん器より排出される飛灰は、飛灰処理設備で重金属安定化薬剤処理した後、最終処分場へ送られ、埋立処分されます。

**蒸気の流れ** →  
ごみを燃やしたときの熱を利用して蒸気を作ります。ボイラで発生する蒸気は蒸気タービン発電機に送られます。蒸気タービン発電機は最大2,420kWの発電を行う能力があります。作られた電気は施設内で利用し、余剰分を電力会社に売電します。発電に利用された蒸気は水に戻り、再びボイラに供給されます。